と不安気な本音もみせる。国の直轄工事とはいえ、反対運動の声を「推進」ではねつけた背後で、議会の支持が持つ力は大きかった。それが、採択に賛成を主張した野上、高橋両委員が「当然のこと」というだけでなく、武藤彬（自）委員も「いろいろ検討が必要な社会情勢だ。再検討の結果『中止』となる可能性が大きい、といえるから、請願の願意は妥当といえるでしょう」と言う。

栗原委員長も「干拓が計画されたのは食糧不足だった二十年前、耕地は十分にある今では、事業の必要性がうすく、霞ヶ浦の浄化の上でも中止すべきではないか」と、反対住民と同じ見方をしている。

井上部長は「県はあくまで推進する考え、農林省も同じ」としているが、漁業補償金の配分をめぐって水戸地検が捜査に乗り出したことに続く〝障害〟が生まれ渋い顔。干拓同意の漁協決議は違法として反対運動を強めようとしている住民には大きな援軍となり、賛否勢力の対決が予想される一月の玉造町長選にも影響を与えそうだ。

建設阻止で県を追及

高浜入干拓反対同盟の渡辺豊吉委員長の話

干拓阻止運動のなかのひとつの前進だ。霞ヶ浦の自然を守るためには干拓中止は絶対必要であり、請願採択は当然だと思う。われわれとしてはさらに運動を強化し、建設阻止で県を追及していきたい。

採択で勇気わく

土浦の自然を守る会代表の佐賀純一さんの話

請願が採択されたことで勇気づけられた。しかし採択が反省の上に立ってのことか、また世論の盛り上がりで都合が悪くなったためかまだわからない。環境庁では陳情に対して浦の浄化をなんとかするといい、行政的には少しずつ動いている。守る会の力は小さいが、やっていることをくんで、県議会も浄化対策に力を入れてほしい。

……毎日新聞……49・11・22

高浜入干拓中止の請願をめぐり県会大荒れ

委員会で中止採択

自民が本会議で白紙に

「多数横暴」と野党反発

「干拓再考」が表面に

解説

最終日の県会がなぜ、こうも荒れたのか。本来なれば委員長報告を本会議で否決するのがスジだった。しかし、それでは委員会の権威はどうなるのか、苦悩した自民党幹部が「連合審査会に差し戻す」という県会史上初めての措置をとったことが混乱を招いてしまった。同時に議